



市民病院

ハチちゃん通信

問 市民病院管理課
☎(48)5050

全国糖尿病週間にあわせて イベントを開催します

11月14日は「世界糖尿病デー」です。糖尿病が原因で亡くなる人を少しでも減らそうと、病気の予防や治療継続を呼びかけるキャンペーンが世界中で行われます。キャンペーンでは、一致団結して糖尿病と闘おうという意味をこめ、青い円（ブルーサークル）をシンボルマークとして用い、シンボルカラーの青色で歴史的な建造物をライトアップする取り組みもされています。例年、名古屋城や大阪城などがライトアップされています。

日本では、11月14日を含む1週間を「全国糖尿病週間」とし、各地で講演会や健康相談などが行われます。それに合わせて市民病院でも11月12日(火)にイベントを



開催します。毎年恒例の血糖測定はじめ、ラジオ体操など体を動かすコーナー、動脈硬化の程度（血管年齢）がわかる検査、糖尿病関連グッズがもらえるスタンプラリー、医師によるミニ講演会および糖尿病クイズ（10時30分～11時30分）も行います。参加は無料で予約も必要ありませんので、みなさんお問い合わせのうえ、気軽に参加してください。

全国糖尿病週間関連行事

とき 11月12日(火) 9時～13時

ところ 市民病院



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内市史資料調査室
☎(41)4566

No.65 はるか昔の大浜湊(2)

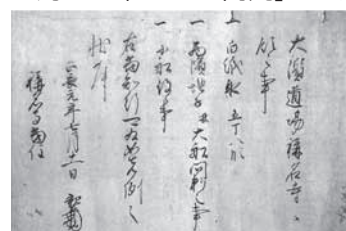
三河湾、伊勢湾では、早くから小型の船が湾内で製塩燃料となる薪、陶器、塩、魚介類などの商いをしていたようです。湊や航路には、縄張りがあり、商売にも許可が必要でした。それぞれの縄張り海域には支配者がいたのです。

支配者の力が弱まる戦国時代には海賊被害が多かったようです。特に南紀熊野海域では平時は漁民でも武装集団となり、熟知する海域で通行料としての関銭（警固料）を徴収したようです。拒めば実力行使もあったようです。

将軍足利義満の頃から大浜湊を支配し、称名寺を創建した人物に志貴荘地頭職和田道弘がいました。称名寺の二世・三世の住職は和田氏出身者が務めたといえます。和田氏は、足利将軍家を支える有力武将でした。江戸時代に大浜称名寺文書を調査し和田氏と足利将軍家には永く確かな主従関係があったことを成島司直という学者が明らかにし、お墨付きを与えました。江戸幕府の歴史書に『徳川実紀』があ

りますが、これをまとめあげた人こそ、他ならぬ成島司直という人でした。

『称名寺縁起』には、和田親平の代に二十一間（約38m）四面の本堂、そのほかの伽藍を建立し700石の土地、海岸の地子金、船税を寄付したと書かれています。海岸の地子金というのは、縄張りの海から得られた漁労収入の一部を漁民が銭で払ったものと考えられます。親平の寄進状には、項目のひとつに「西浜地子并大船問料之事」とあります。これは大浜に大小の船が入港するので、船から「問料」を称名寺が徴収していたこととなります。大浜には重要な湊にしかない三河でも唯一の「問丸」があったのです。



△和田親平が「舟問料」「地子」を称名寺に与えた文書（称名寺所蔵）